

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>社会福祉法人善光寺大本願福祉会基本理念、川田の宿基本理念及び規定に理念を定めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念については、ケア会議時に職員と確認したり、館内の見える所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、理念に基づきケアプランを作成しケアに取り組んでいる。事業計画にも反映している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>理念を活かした事業計画書及び運営推進会議の会議録を送付し理解を深めていただく工夫をしている。また、地域の代表者による運営推進会議にて理念、運営、ケア等について説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣のボランティアの訪問や散歩で行き会う隣近所の人々と声を掛け合ったり、季節の野菜や果物を頂いたり届けてもらったりと交流も多い。また地域の役員や、入居者の知人で近隣者の面会時には立ち寄っていただき、交流している。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として自治会に加入している。地区の総会や講習会にも参加すると共に、地区の草刈などの作業にも参加している。またお祭りや運動会などの地域の行事にも参加し交流を深めている。</p>	

グループホーム川田の宿(終棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域からの協力を得るだけでなく、地域への貢献も事業計画の目標として定めている。そのためにも地域の高齢者の状況を知ると共に、職員の能力向上を目標とした研修を実施している。		認知症専門施設として、地域の相談受付や情報発信ができるよう、研修会や書籍等で知識の醸成を図り、能力の向上に努める。また、広報誌を活用し認知症についての情報も発信していきたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価受審の意義について、ケア会議にて説明し理解を深めている。事業計画作成時にも指針として参考にしている。また、評価結果を真摯に受け止め改善を図っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域密着型サービスとしてのグループホームのあり方や、当事業所の概要、基本理念、運営、ケア内容などについて説明し、質疑応答および協議を行なっている。外部評価の報告、協議についても行なっている。		近隣保育園との交流等、会議の中からの提案を来年度の事業計画に反映できるよう準備を進めている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の市町村担当者として、地域包括センターの職員に委託している。日ごろより地域の高齢者福祉の状況やニーズについて情報交換、相談を実施している。また、入居者に影響する運営基準などについては、市担当者に相談および質問をしている		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加し学習している。また、全職員にも研修資料を配布し理解を深めてもらっている。特に必要と思われるケースについては、家族に制度の説明や活用を促す等している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修を受け、ケア会議で報告している。事業所内では、身体状況および精神状態の把握に努め注意を払っている。また、職員の介護業務などの悩みや課題についての相談を受け、改善を図り防止を図っている。		

グループホーム川田の宿(柊棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

グループホーム川田の宿(終棟)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者、介護支援専門員は、柔軟な対応ができるような勤務体制に努めている。(基準以上の体制)また、必要時には勤務調整および超勤対応をしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>会議や個人面談、日々の関わりの中で、職員の意見や悩みを吸い上げ、離職に結びつかないようにしている。また職員の採用については、事前に実習に来てもらい、業務内容や入居者の反応などを確認している。採用時に施設の特性から長期の就労をお願いしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立て受講を進めている。個人面談等で個人の希望を聞き、必要に応じ研修に参加できるよう調整している。日々のケアの様子から、必要と思われる介護事項を、ケア会議などで確認、指導している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>善光寺平グループホームねっと会議に参加し、善光寺平圏域のグループホームとの情報交換、勉強会などを行っている。また全国認知症グループホーム協会に加盟している。</p>		<p>近隣のグループホームとの交流(お互いの施設の見学等)を図り、サービスの向上を図る。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事にやりがいがあるような係などの役割を担当してもらっている。ストレスのかかりやすい職場であるので、人間関係や個人の思いが言いやすい環境を心がけている。個々の休憩時間を確保するため、職員の意見を聞き業務の見直しを行っている。</p>		

グループホーム川田の宿(終棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営、雇用等に対し総合的に把握している。管理者と相談しながらアドバイスや評価を行なっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居決定に当たっては、自宅を訪問し、入居希望者および家族との面談を実施し、身体状況や生活の様子、悩みや希望を伺いその後かわりに反映させている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居の申込が電話の場合は、面談を実施している。来所いただいた際には、館内を見学していただき、直接話を聞くことで不安な事項等確認している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態と生活状態などについて把握する中で、必要と思われる支援を見極め、アドバイスするようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にグループホームの様子を説明したり、可能な方には下見に来ていただいている。		

グループホーム川田の宿(柵棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の方にも洗濯物たたみ、掃除、食事の準備、片付けに参加してもらい、若い職員の中には入居者に作り方や味見をお願いしたり、職員が入居者に悩みの相談に乗ってもらうこともある。お互いに支えあう関係作りをしている。また外出した際には入居者、職員共に楽しく過ごしている。</p>	<p>入居者の不安な気持ちを受け止め謙虚な気持ちで接していく。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の方が楽しんでいたこと(誕生会・外出等)を家族にお伝えし、また面会時にはそのときの写真を見ていただき、共有するようにしている。家族の方も入居者と外出に出かけ、不安な気持ちの解消や気分転換を図ってもらっている。</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居申込みや、入居前の面接時の情報、介護支援専門員などの情報から家族関係を理解し、ケースに応じて支援している。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族や友人など親しくしていた方々との関係が継続するよう支援している。本人の希望を家族に伝えたり、来訪者との関係作りに配慮している。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関わりを強要せず、一人ひとりに合った距離での係わり合いを持っている。食事やお茶会、レクなどを通し、楽しい時間が共有できるよう配慮している。認知症や生活の違いによりお互いに理解しにくい状況もあるが、職員がそれぞれの人間関係を理解し介在している。</p>	

グループホーム川田の宿(終棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>32 関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院が長引き、契約解除に至ったケースもあったが、退院後の入居施設についての相談を受けたり、入院中の対応などは継続して行なった。医療連携加算についての説明時にも、継続した関わりについて説明を行い、家族に確認してもらっている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
<p>33 思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者本人の意志や希望をアセスメントや日々の生活の中から汲み取る努力をしている。家族の希望も参考にしているが、本人主体の支援を心がけている。</p>		
<p>34 これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に家族の方にサービス利用や生活歴、生活パターン、嗜好等を伺い把握に努めている。入居後も、本人、家族からの話や、聞き取りにも重点を置いている。</p>		
<p>35 暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の日誌、ケース記録、アセスメントなどにより総合的な把握に努めている。身体の状態が精神面に大きく作用することを理解し、把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
<p>36 チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに基づき、入居者本人の状況の把握に努めている。ケアプランの作成に当たっては、入居者の希望を思い図るところも多いが、家族や担当者からの意見も聞きいれ作成している。</p>		

グループホーム川田の宿(棟棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在6ヶ月に一度見直しを行なっているが、入居者の体調の変化や認知症の進行に伴い計画を変更している。		体調や生活の変化が少ない方への細かなアセスメントとケアプランの実施。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録ができるようにし、ケアプランの実践、結果などの把握がしやすいようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の受診、急な受診対応をしている。買い物や外出、美容院等への送迎など柔軟な対応ができるような体制、工夫を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方には定期的に外出やおやつ作り、季節の行事(繭玉作り、やしょうま作り、リンゴ狩など)に協力していただいている。消防署の指導の下、地域役員も交えた防災訓練を実施している。		民生委員の方との協力で、来年度は近隣保育園との交流が図れるよう準備している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望はないが、入居前に利用していた事業所を訪問したり、介護支援専門員に訪問していただくなど相談している。		

グループホーム川田の宿(終棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者については必要なケースはないが、運営推進会議の委員として会議に参加していただいているため、必要時は共同しやすいと思われる。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師によるかかりつけ医および協力医療機関との関係を密にしながら、医療的支援(上申・受診など)を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の診断、治療に必要なケースについては、家人に専門医の受診を勧めている。必要場合は受診対応(状況説明・服用後の症状報告・相談など)を行なっている。処方箋の受け取り、支払いなども行なっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し医療連携体制を整えた。身体的変化、異変に対しては、危機管理意識に基づき医療機関への相談、受診を行なっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会や電話にて入院状態の確認や、グループホームの契約内容について説明するなど情報交換をしている。医師からの病状説明時に差しさわりのない場合は同席させていただいている。遠方の家族に対しては入院対応(洗濯・支払いなど)を行なっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制の整備により終末期の指針を定めている。ケア会議にて指針を職員に説明している。また医師からの病状説明を受け全員で病状の共有を図り、家族の方にも説明をしている。		

グループホーム川田の宿(終棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>入居者を尊重し、言葉使いに注意し接する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホーム川田の宿(終棟)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩、外出、買い物、レクなど入居者の意思を尊重し参加してもらっている。また生活についても寝ていたいときや、延食したいときなどは本人の意思を尊重し対応している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者を連れ、好みの洋服などを買いにいったり、理美容院へ行くための支援(予約・送迎など)をしている。日常の身だしなみについても、職員は意識して声を掛けるようにして、働きかけている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お茶くみ、下ごしらえ、盛り付け、配下膳、食器拭きなど入居者にできるところは手伝っていただき、食事をしている。それぞれの分担もできかわりを持ってもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好については、入居時に家族に確認したり、日ごろの様子から判断している。食べられない食材のときは代替品を用意し、好みのものについては多めに盛り分ける等の対応をしている。飲酒については、行事の際に配慮したり、入居者から希望のあったときなどは可能な限り対応している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄記録表を活用し、排泄パターンの把握に努め、可能な限りトイレで排泄してもらっている。</p>		

グループホーム川田の宿(棟棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調により入浴を勧め、本人の希望時には日や時間を変えて入浴していただいている。また夏季は外出後など発汗後にも入浴してもらうなど配慮している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝の遅い方については、ゆっくり休んでもらうなど配慮し、日中も本人の様子を見て居室や和室にて休めるよう勧めたり、ソファにてくつろいでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの方の生活歴を把握し、得意な作業を担当していただくよう配慮している。家事や農作業、洋裁、身の上相談など様々である。外出等も本人の希望をお聞きしたり、日々の会話の中から目的地を決め、出かけてもらい楽しんでいる。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで混乱や不安になる方もいるが、希望する入居者には管理可能な金額の範囲内で買い物など楽しんでいただいている。また入居者に必要なお金は金庫にて預かっていることを説明し、安心していただくこともある。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等戸外へ出て過ごすことは日常的に行なっている。日に何回も散歩に出る方もいる。体調や天候を考慮し対応している。毎日の食材の買い物にも交替で同行していただき、買い物を楽しんでいる。		行事や外出ではなく、日常の散歩の延長で天気の良い日は近所の公園などにお茶やお菓子を持って過ごし気分転換を図っていきたい。

グループホーム川田の宿(棟棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春と秋に本人に希望をとり、希望のところへ外出、外食する機会を設けている。(善光寺・美術館・デパート等)それ以外にもお祭り、地域の行事等にも外出している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙についてはやり取りがないが、電話についてはできる範囲で支援している。		家族や顔なじみの知人に年賀状などを書いて出せるよう支援していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問、面会についてはいつでも受け入れている。居室だけでなく、リビングで一緒にお茶を飲んだり、和室やソファにて過ごしてもらうなどし、家庭的な雰囲気でお過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないことを開設前、採用時、ケア会議で周知している。安全確保など止むを得ない場合には、「身体拘束同意書」にて家族に説明の上同意を得ることとなっている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解している。入居者が著しく落ち着かない場合は、安全のためから敷地内から道路に出る門を閉めることはある。また玄関に徘徊センサーの設置、玄関中戸に来客を知らせるチャイムを設置しできるだけ施錠せず対応するよう努力している。		

グループホーム川田の宿(棟棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者の所在や様子の把握に努めている。入居者同士でトラブルの多い方については、距離をとる、職員が傍で見守るなどの配慮し回避に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の居室に関しては、本人が管理できると判断した場合にはそのまま様子を見ている。他の方の居室などへの入室については職員が入居者の所在を確認し注意を払っている。公共の場所では必要に応じて配慮している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書から事故の対応や防止策を検討したり、無断外出緊急時対応マニュアルを作成し対応の参考にしている。また入居者のアセスメントを行い、課題を明確にし状態に応じた対応(付添い、誤嚥防止、外出防止など)をしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習を受講している。入居者の急変時のマニュアルを作成したり、危険を予期させる時期(正月の誤嚥、夏季の食中毒など)には、ケア会議や伝達にて全職員に確認をするようにしている。定期的な訓練は実施していない。		緊急時の応急処置や初期対応の定期的な訓練の実施。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火防災訓練を実施し、地域の方にも参加していただき、協力をお願いしている。地区の総会でも区民の皆様に協力をお願いしている。また地元地区と「災害に関わる協力応援協定」を結ばせていただいている。		地震を想定しての訓練の実施。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時及び面会時に生活の様子や予想できる範囲でのリスクの説明を行なっている。体調の変化や精神症状の変化、薬の変更等のリスクも説明し相談している。		

グループホーム川田の宿(柵棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

グループホーム川田の宿(棟棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し対応している。またケア会議にて勉強し、予防に努めている。		一行為一手洗いの実施。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事係を中心に衛生管理(食材、キッチン回り、冷蔵庫など)を行なっている。調理器具、布巾、タオル、台拭きなどは担当を決め毎日消毒している。食材については新鮮な食材を毎日購入し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や玄関前アプローチにはベンチを設置し活用している。玄関、玄関周りに花を飾ったりするなどし、家庭的な雰囲気となるように工夫している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開け外の風景を楽しむ、入居者の手芸などの作品、写真、カレンダー、散歩時に採ってきた花を飾るなどし、生活感、季節感のある空間作りをしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ソファ、テーブル席、ベンチなど入居者に自由にくつろいでいただいている。		

グループホーム川田の宿(終棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものをご用意いただくよう説明している。写真や仏壇、琴などそれぞれが使い慣れたなじみのものをお持ちいただき住み慣れた空間作りをしていただいている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇や窓の開き閉めにより、毎日行なっている。各所に温度計を設置し、館内や居室内の空調はエアコンにより調整している。建物の構造上暑くなりやすい部屋や寒くなりやすい部屋について把握をし注意を払っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置し、歩行不安定な方でも歩きやすいよう配慮している。また館内各所にベンチもあり利用してもらっている。また本人の残存能力を活かすようベットのサイドバーを設置するなど配慮している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人のできることはやっていただけるように声かけ、見守りをしている。日常の中でできないこと見極め、できないところについては援助するようにしている。ケアプランにも立案している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や玄関アプローチに花を生け季節の花を楽しんでもらっている。天気の良い日はデッキでお茶会や日光浴したりと活用している。		行事や外出ではなく、日常の散歩の延長で天気の良い日は近所の公園などにお茶やお菓子を持って過ごし気分転換を図っていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

グループホーム川田の宿(柊棟)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム川田の宿(柊棟)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が入居者一人ひとりの思いを汲み取り、なるべく画一的なケアではなく、個別的なケア、対応に力を入れている。一人ひとりの生活歴などを情報提供書からだけでなく、日々のかかわりや会話の中から引き出し、それをもとに本人の思いに沿ったケアができるよう努めている。地域の特性もあり、近所の方とも家庭的な交流ができ、お互いに顔なじみの関係が持てるようになっている。敷地内に畑や花壇を整備しており、自然からの楽しみを味わっていただいている。また看護師の採用により、さらなる健康管理や医療機関との連携に力を入れていく。